

## 令和2年度 江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和2年12月24日（木）午後1時30分から午後2時30分まで
会 場	江南区役所3階 302会議室
出席者	江南区自治協議会委員 25名（欠席4名） 教育委員：渡邊純子委員、五十嵐悠介委員 事務局：教育総務課長、教育総務課係長、学校支援課長補佐 学校支援課指導主事 亀田地区公民館長、亀田図書館長 江南区教育支援センター所長 他3名 江南区役所：地域総務課長補佐 傍聴者： 0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶
渡邊 教育委員	<p>皆さんこんにちは。教育委員を務めております渡邊純子です。今年で2年目になります。昨年同様、江南区を担当することになりました。昨年を少し振り返りますと、教育ミーティングで皆さんがとても建設的なご意見を出され、さて今年はそれを実行するのだろうかと考えておりました。ところが、新型コロナウイルス感染症という大きな壁にぶつかりまして、本当にこのようなミーティングを行うのも今日が初めてとなりました。学校現場もいろいろと変革しなければならぬこともありますし、今日ご説明があると思いますが、オンライン授業やGIGAスクール構想がどんどん進められております。私も先日、GIGAスクールの授業を視察することができました。子どもたちの様子を見ると、コロナ禍で不自由な思いをしているかと思っておりましたが、一人一台の端末を自由に操っていて、いろいろな表現ができるのだなど、明るい希望を持ちました。</p> <p>今日は短い時間ではありますが、貴重な時間に皆さんからおいでいただき感謝を申し上げます。ぜひ有意義な時間になればと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
五十嵐 教育委員	<p>改めまして、皆さんこんにちは。今年の4月より教育委員を拝命いたしました五十嵐悠介と申します。これから渡邊委員とともに江南区を担当させていただきますことになりましたので、お見知りおきのほどよろしくお願いいたします。</p> <p>まずは本日、この場にお集まりいただきました江南区の教育に力を注いで下さっている皆様に、心より感謝を申し上げたいと思っております。今ほど渡邊委員からもお話がありましたが、未曾有の新型コロナウイルス感染症という事態の中で、我々自身も、どのように子どもたちの教育に向き合うべき</p>

	<p>かというところが、正直、核とした答えが出ていない部分もあるかもしれませんが。しかし、子どもたちの教育だけは止めることはできませんので、ぜひ皆さんからお知恵をお借りしながら、今後市の教育に向き合ってもらいたいと考えております。</p> <p>本日お話もありますが、タブレットにつきましても、リスクはしっかりと我々のほうでも把握しつつ、どうやったら子どもたちの教育に活かしていけるかという、さまざまな建設的な考えを皆様から持っていただければと思っておりますので、これからもよろしく申し上げます。</p>
議 事	<p>3 説明</p> <p>(1) これからの時代の学校教育について (タブレットを活用した授業)</p> <p>(2) 新しい生活様式を踏まえた学校運営について</p> <p>(3) 質疑応答</p> <p>※ (1) (2) の説明内容は会議資料を参照</p>
司 会	<p>これより質疑応答に入ります。ただ今の説明でご意見、ご質問がある方は挙手をお願いします。また、ご発言の際は団体名とお名前をお聞かせください。</p>
自治協委員	<p>オンライン授業の中のお話で、不登校のお子さんと一緒に授業ができる、とお話しされたと思うのです。それはよく分かります。では今現在不登校のおさんは、欠席となると思うのですが、今度オンライン授業が始まったときに、家庭でやりますということになると、欠席扱いではなく出席扱いという形にこれからはなっていくのでしょうか。その場合、どこで判断するのかというのをお聞かせ願いたいと思います。</p>
学校支援課	<p>文部科学省から通知が出ておまして、ICTを活用して、不登校のおさんが家庭などで学習するという場合で、学習内容がそれによってきちんと担保されるということを学校長が判断できるという場合は、出席扱いにできます。ですのでケースバイケースとなっていて、実際のところ今現在そういう支援をしているケースが新潟市内にもあるのですけれども、お子さんたちの今の状態からすると、1週間に1回だけ繋ぐお子さんもいたり、毎日3時間目だけ繋いでという形になっているお子さんもいます。フルに完全に出席してという形が必ずしも取れなかったりとか、状況がお子さんによって違うので、最終的なその判断は学校長になっています。そうやって少しでも教室と繋がれるようなお子さんを増やしていったら、改善に向かうといいな、というような形での取り組みを進めていこうということです。</p>

自治協委員

ただいまの説明の中で、タブレットを使った教育の説明があったのですが、これを聞いておられますと、教育の質の向上であるとか、大規模災害であるとか、感染症のような場合には、大変力を発揮して、ものすごくいいものではないかと思っておりました。一つ分からないものがありましてお聞きをしたいのですが、今までの子どもたちは、この機器を使う以前から、パソコンやスマホであるとか、そういうものでゲームなどをして遊んでおります。非常に視力の衰えというのが指摘されておまして、これは医学界も教育界も同じようなデータをお持ちのようですが、ここでまた iPad 端末を使った場合に、学校で使わせる時間は短いかもしれませんが、累計すると非常に大きな時間、電子機器に目がさらされるというような関係の考えも出てくると思います。そうしますと、学者の中でも、ブルーライトが脳の発達あるいは発育に非常に悪影響を与えるという研究発表もなされています。学校側としても、保健の先生もおられますし、校医もおられると思うのですが、子どもの体に関するものの考え方はどのように思っておられるのか、少しお聞かせいただきたいと思っております。

学校支援課

大変重要なお指摘をいただいたと思っております。まず、今までゲーム等をやっていた子どもたちが日本の場合が多かったのです。これは国際規格や世界の流れでいうと、日本だけやはり異質で、学校教育でこれまで ICT を使ってこなくて、家でゲームなどそういう利用についてはとても多い。これはいろいろなモラル上の問題も起きています。そこがまずいということが今回 G I G A スクール のときに引き金となって検討されたということがあります。ですので、そこをひっくり返すことが必要で、ゲーム時間中心にやっていた子どもたちを、今度 ICT の学習面に生かすよさを前面にして、その中で情報のモラルもしっかり身につけて、自分でコントロールしてメディアにかかわる時間を意識しながら調整していったゲームを減らしていくというのが大きな趣旨でございます。これが 1 点目です。

2 点目に、医学界の考え方のところを、今回の G I G A スクール で国がどう考えてきたかという、医学の有識者からヒアリングをしていった中で、30 分経ったら 20 秒以上目を休める。30 センチ離して使う。これは紙でも同じです。そのあたりの基準を一応示しています。新潟市の G I G A スクール ガイドラインの中でも、30 分で休憩ということを示して、先生方にも目の健康を守りながらやっていこうということをお伝えしていくことで、しっかりと進めていきたいと思っております。

自治協委員

非常に大きな時代の流れの中で、学校の教育の形態も変わっていくのだなと興味深くお聞きしたのですが、例えば今までと評価の仕方も変わってくるのかなと思っておりました。今までペーパーで出されたテストなどで先生方の評価

<p>学校支援課</p>	<p>がつく。そういったことも当然ポイントとして変わってくるのでしょうか。</p> <p>G I G Aスクールによって評価がどう変わるかというところは、直接的に、また別の意味で指導要領というものがあって、その改定が小学校では今年度から始まっていて、新しい評価方法というのがあります。ただ、端末の中にいろいろな学習の成果物とか、学習履歴とって子どもたちが学んでいった時のデータが残るので、それらを使って、先生方が子どもの力がどう伸びたかというのをはかっていくというようなことは今後当然します。それから、もう一つ大きな流れでいうと、C B T (Computer Based Testing コンピューター上で実施される試験)とって、今度はコンピューターで大学受験とか、そういったものになる方向を国が模索しておりまして、令和3年度にもそこにお金を掛けて、研究が始まります。ですから、数年スパンでみていくと、これから10年くらいかけて進んでいくと思いますが、向かっていく方向からすると、コンピューターを使う能力というものも評価対象に入ってきます。実際高校の指導要領が変わって、情報という授業があるのですが、そこが必修化され、国語とか、英語や数学と同じように、情報という授業を必修でやっていくような時代が変わっていくということもありますので、義務教育段階からそこを見越して力をつけていくことを意識していきたいと思っています。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今ほどいろいろお話を聞いて、使用時間といいますか、制限みたいなものはあるのでしょうか。やはり楽しくて、ゲーム感覚で学習が進んでいくと、少し時間を超えたりということがあったり、睡眠時間が減るとか、そういうところにも少し影響が出るかと思います。主にタブレットを持つとなると、それぞれ使う時間に差が出てくるとは思います。そのあたりは制限をかけるのでしょうか。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>一律の制限というものはかけませんが、ご指摘のように依存的になってしまうお子さんが出る心配は当然あります。そこについて、家庭に持ち帰る時は、家庭の管理監督については保護者のもちろん責任にならざるを得ません。とはいいいながら、学校でも指導していくといいますか、使い方、ただ一律で何時間等でしぼってしまうと、それはそれで逆の悪影響もありますので、その管理を自己調整できるような子どもたち、そういう資質能力を高めていくという方向で、学校と家庭、地域で一体となって進めていけるようなことを目指していきたいと考えております。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今ほどお聞きしていますと、メリットだけのお答えのような気がするのです。4校パイロット校がありますが、今、この中でデメリット、困っている</p>

	<p>ことを改善したいとか、いろいろなご意見というのが出るのではないかと思います。具体的には何かございましたら、お聞かせいただきたいです。</p> <p>デメリットとしてパイロット校からあがっているのは、環境面の整備の部分があります。今回ネットワークを増強して、いつでも繋がれるようにということはもちろん目指しています。しかし予算の関係も当然ありますし、増強したからといって、全部の台数がすべていつでも学校で上手にネットに繋がるのかとか、動画をみんなが観たら繋がるのかとか、結局、授業が止まってしまう可能性があるのではないかとという危惧は今もあります。それを今後検証しながら、どうしても授業に影響が出るようであれば、そこに予算要求をして乗り越えていくとか、市全体で考えていかなければなりません。これから6万台が一気に稼働するので、パイロット校から、そういうところが大丈夫かと心配の声は頂いています。</p> <p>あとは情報モラル上の、悪い書き込みをするのではないかとというのも多分保護者の方も思っておられますが、そこについては基本的にはフィルタリングというものがあって、危ないサイトなどは制限がなされております。またその情報モラル的な教育について、全市的に一斉にやっていくということで、小さい問題が起きてくるということはあると思いますが、そこを見逃さないで、皆さんで高めていって、本当に必要な力をつけていくところまでしていきたいと思っています。パイロット校からは、その辺の問題は授業の中ではあまりあがってきてはおりません。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今ほどのマイナスの面も私も少し気になりました。これまでの学習形態というのは一斉授業で、子どもの顔を見ながら、子どもの目を見ながら先生方が個々に対応したり、その子に合った指導をしてきたと思いますが、これからこういう形になりますと、子どもの目なんて全く分からない。画面上では確かに正解であった、プラスですよ、丸ですよ、と評価ができる。一番大事な人間関係というのは、その辺のコミュニケーションが図れない子が多い時代になってきているわけですので、そういう人間関係の構築、その辺をどのようにこれからしていられるのか。すべての授業でタブレットを使うのではないと思いますが、やはり一人ひとりの動き、仕草、そのものを見取ることを先生方には忘れないでほしいと思います。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>おっしゃるとおりで、タブレットが入ったからといって、コンピュータばかり向かっているような、そんな教育は全く目指していません。よりコミュニケーションが豊かになるような使い方、自分の作った作品を友達や先生に見せて、先ほども英語でやったものをお互いにチェックしているような場面があったと思いますが、より協働的な学びというのですが、それが大事だ</p>

自治協委員	<p>ということのメッセージを、先生方にもしっかり伝えながら、個別でやった方がいいということもあるけれど、コミュニケーションを取ることは絶対に大事ですよということを、これまでどおり教育委員会としてやっていきたいと思えます。</p> <p>とてもいいなと思いながら話を聞いていまして、最適化でしたり、思考を共有できるというのはとてもいいと思いました。今まではノートですとなかなか全児童の分をほかの児童が見るということがなかったのが、その端末を通してみんなで共有できたり、いろいろな考えに触れる機会がさらに増えていくと思ってお聞きしていました。家庭でのWi-Fi環境ですが、どうしても家庭の事情によっては、なかなかそこが整備できないという家庭も、きっと多くの家庭は当たり前のように設置されていると思いますが、新潟市でも少しずつ増えてきてはいるのですが、公共施設のWi-Fi環境や、少し身近な公民館や図書館にしっかり整備されていくと、家庭でなかなか難しくても、家庭へ帰ってからそういう場所だという子もいると思いますので、そこが一緒に整備されていくと、少しそこの問題が解消されていくのではないかと思います。</p>
教育支援課	<p>ご指摘のとおりと思っています。ご家庭にWi-Fiがない方に対する支援としては、一応教育委員会でも用意していて、一万台くらいのWi-Fiルーターをお貸しすることが4月からできるようになります。ただ、平等性の観点から、通信料はご負担いただくこととなりますが、端末はお貸しできるということで、その辺りは学校を通じて各保護者の方にしっかりとお伝えをしていきたいと思っています。公共施設についても、他の課と協力しながら、やれるところの整備を今進める話は出ていますので、またお伝えできると思っています。ありがとうございます。</p>
司 会	<p>お時間も参りましたので、この辺で、質疑応答を終了させていただきたいと思えます。皆様からの貴重なご意見等ありがとうございました。</p>
議 事	<p>4 江南区自治協議会会長挨拶</p>
司 会	<p>それでは、閉会にあたり、江南区自治協議会会長様からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
自治協議会 会長	<p>これからの我々が今まで経験しなかったようなIT授業が始まろうとしております。やはりこれに関しては子どもだけではなく大人ももう少し勉強して、取り組む必要があるのではないかと思います。先ほど質問をさせていただいたとおり、やはりデメリットが必ずあると思うのです。そういっ</p>

	<p>たものをすべからく解決しながら、有意義な形で進めていただければと思いますし、その反面、逆に家庭内学習が多くなるということになりますと、いわゆる体力的な衰えというのやはり考えていかなければいけないのではないかと思います。江南区は今、比較的体力のある子どもが多いようですけれども、こういった家庭内学習が増えてきますとどうしても体力の低下ということも考えられるのではないかと思います。</p> <p>それともう一つ、いじめの問題なのですが、江南区では最近はいじめが少なくなっていると。新潟市でもいじめの認知件数に対する解消率が90.5パーセントまで回復しているというデータもあります。ただ、どこからどこまでがいじめの許容範囲になるのか。また教師自体が、ちょっとした教師の言動によって、子どもがそれを誤解していじめにつながるということがやはり考えられると思います。家庭学習が多くなりますので、自治協委員の皆さんご自身も、周りの子どもたちをよく見据えていただいて、一言注意を与えるとか、子どもの見守りといったものも強化していただきたいと思います。各コミュニティ協議会の皆さんも、コミュニティ協議会同士いろいろなことを検討されていると思いますので、要は子どもを中心とした環境づくりにご尽力いただければと思います。今日は有意義なお話をお聞かせいただきまして、ありがとうございました。</p>
議 事	5 閉会
司 会	<p>以上をもちまして、令和2年度江南区教育ミーティングを閉会いたします。皆さま、長時間にわたりありがとうございました。</p>